

目標の設定及び達成に向けた考え方について(区作成)

【阿倍野区】(受託者:一般財団法人大阪市コミュニティ協会)

		区の考え方等	
1	地域課題・ニーズ等の状況について	「防災」、「防犯」、「高齢者いきがづくり」など地域課題があり、その解決のために各種地域活動を実施されているが、特に、地活協の事務局機能の充実や、地域活動の担い手不足の解消に向けた取り組みが必要である。	
		26年度末に区内全地域で地活協が立ち上がり5~7年目となっている。組織運営や会計支援その他、地域ごとの特色やニーズに応じたサポートが必要な状態である。	
2	当事業によりめざす状態	地域活動協議会が、まちづくりセンターの支援なく、自律運営ができる状態。	【現在の状況】 ・達成状況:概ね7割程度達成 説明:下記の達成状況からまちづくりセンターの支援に頼っている部分もあるが、各地域とも自律的に活動が進められつつある。
3	当事業の目標		
	(1) 中長期の目標	「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)」のステージ2までの項目を達成	【現在の状況】 ・達成:0地域 未達成:10地域 ステージ1:全地域20項目中20項目達成 ステージ2:全地域12項目中8から11項目達成
		校区等地域において、様々な活動主体が協働し、その話し合いのもと合意を形成し自ら地域課題の解決に取り組み、その情報発信に努めるなど、地域が自律的に運営されていると感じる区民の割合:32年度末までに70%以上	【現在の状況】 区民モニターアンケート(元年度実施) 47.5%
	(2) 令和元年度目標		
	ア 「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)」	形成済の全地域活動協議会について、ステージ1の項目を全て達成の他、ステージ2の各項目のうち、12項目を達成	【現在の状況】 ・達成:0地域 未達成:10地域 ステージ1:全地域20項目中20項目達成 ステージ2:全地域12項目中8から11項目達成
	イ 利用者アンケート調査		
	(ア) 自律的な地域運営	地域運営にさまざまな市民活動団体が集まって、地域の活動や地域課題について話し合うことが活発になっていると思う割合:70%	【現在の状況】 地域運営にさまざまな市民活動団体が集まって、地域の活動や地域課題について話し合うことが活発になっていると思いますか。 58.5%(①そう思う 23.2% + ②ややそう思う 35.3%)
		地域活動に新たな担い手が増えてきたと感じている割合:55%	【現在の状況】 あなたの地域について、地域活動に新たな担い手が増えてきたと感じますか。 56.6%(①そう思う 11.9% + ②ややそう思う 44.7%)
	(イ) 中間支援組織の活用	中間支援組織の支援に満足している割合:88%	【現在の状況】 まちづくりセンター等の支援について、満足していますか。(問1) 81.7%(①満足している 36.5% + ②ある程度満足している 45.2%)

	区の考え方等
4 地域活動協議会の状況についての分析 上記2・3の【現在の状況】及び評価資料等を踏まえ分析	<p>各地域活動協議会において、自律的な地域運営に向けて順調に進捗している。また、地域ごとの特色も出てきているところである。アンケートによると、まちづくりセンターの支援については、「自律的な地域運営に取り組んでいる」、「満足している」と感じている割合は、高い割合になっている。</p> <p>一方で、取組ごとに見ると、特にSNSに関することなどについては、取組が進んでいない地域もあり、また、会計に関しても取組は進んでいるが、アンケートによると、「会計事務の適正な執行に向けた支援」については、役に立っているとの回答が80%を超えており、まちづくりセンターによる会計に関する支援が期待されている状態である。</p> <p>新たな担い手に関しての取組については、28年度から強化し元年度は“ほっとカフェ”を4回開催し、地域役員と若い世代との連携の支援を行っている。地域によって意識の差があるが担い手に関するニーズは高い。アンケートでは、新たな担い手が増えてきていると感じている割合は目標の55%を超えてきたが、昨年度から横ばい状態で、スタッフの高齢化、担い手不足は続いている状況である。</p> <p>また、令和元年度は客観的な分析ツールである地域カルテの更新作業の支援を行うとともに、地域の課題の共有を進めるため地域別にワークショップの開催を行った。</p>
5 当事業による支援の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの地域のことについて、地域団体をはじめ、NPO・企業など地域のまちづくりに関する活動主体が課題やテーマごとに考え、話し合い、課題解決に向けて活動する仕組みである地域活動協議会の活動を支援する。 ・若い世代やマンション住民などこれまで地域活動への関わりが薄かった人たちをはじめあらゆる世代を対象として、地域における「つながり」「きずな」の大切さを伝えるとともに、世代間の協力のもと、地域で支え合い助け合っ楽しく暮らせるまちづくりを推進する。 ・地域団体がより一層の民主的で開かれた組織運営と会計の透明性の確保ができるよう支援する。 ・地域活動に関心がありながら関わりが薄かった人たちが活動できる機会や場の拡充など、地域活動の担い手の拡大を支援する。
6 目標達成に向けた戦略	<p>中間支援組織(まちづくりセンターを設置)を活用した地域活動協議会の自律運営にかかる支援を実施。特に、若い世代など幅広い市民参画の促進、新たな担い手の発掘や地域における担い手のスキルアップに向けた支援の強化。</p> <p>○事務局機能の充実:運営委員会など会合のサポート、各地域の事業の企画のサポート、分科会による地域間の情報交換・共有、広報サポート</p> <p>○新たな担い手確保:交流会の開催(地域活動協議会と各種団体・企業・学校等との連携)、地域活動の担い手発掘支援等</p> <p>○地域カルテを活用した支援:地域カルテを作成することにより、地域の弱み、強みを「みえる化」し、地域課題を解決することによって地域の一体化を支援する。</p>